

J I A 「建築家大会 2008 東北」

建築家大会 2008 東北 11月17日

中部国際空港を經由して昼前に仙台空港に着き、市街地へ鉄道で向かった。便数が少なく30分近く列車の中で待ち12時前ようやく仙台駅到着。そのまま支部の役員会に出席。そして、せんだいメディアテークに移動して式典に参加。

式典は1階のホールで行われたが、天井まであるスライディングのサッシが開かれており車の音や、通りを歩く人の話し声が出て、屋外で行われているような大会の式典でした。



せんだいメディアテーク

大会式典・基調講演・パネルディスカッション

11月17日

大会実行委員長のあいさつは日本語と英語で行われ、海外からの来賓者や2年後の世界大会を意識して行われたようだった。

基調講演の後、パネルディスカッション。パネラーは法政大学の五十嵐氏、出江会長、山本氏、川崎氏、コーディネーターが松本副会長。建築家の職能の件、収入の件等の討議がなされた。建築以外の識者として五十嵐氏の建築家の資格制度や建築の確認制度の意見は、建築業界からは出ないような意見であった。建築の確認制度を許可制に移行させるという意見では、許可するのは行政なのか、という点で激しく議論がなされた。また、工事の監理に話が変わった際も、建築家（JIAの意）4000人強の人数で全国の工事の監理が出来るのかという意見で、現実を厳しい口調で五十嵐氏が発言していた。

最後が、時間切れで方向性を見出せないまま終了したのが残念であったが、一般の人の見方として、五十嵐氏の意見は、これから取り組まなければならない課題を鋭く突きつけられていると感じた。

その後、夕方会場を移して、レセプションが行われた。



式典会場風景



パネルディスカッション

シンポジウム：秋田 岩手 山形 11月18日

3名の発表者がそれぞれ係った建築の保存について説明を行い、その後パネルディスカッションに入った。パネラーは、会員の花田氏、岡田氏、渡辺氏、会員以外で小沢氏、甲斐氏の5名。内容は、青山練兵場と半田倉庫の保存、鮎川小学校の再生保存であった。鮎川小学校は児童の減少で廃校になったが、興味を持った小沢氏が、様々な人と知り合いながら保存の運動を続けている。廃校の問題は鹿児島県でもあり、興味深く聴くことができた。文化財としてや歴史的に貴重なものではないが、地域の人みんなで作った校舎に愛着を持ち、その地域の中心的な建物であり、そこで学んだ人たちの心のよりどころという点で、価値のあるものという捕らえ方によって保存という活動を支えていた。

また、宮崎出身の甲斐氏は、NPO法人を作りながら、農村を中心に活動している。都市からの若者たちが農村に移り住み、廃校の学校を保存し活用している様子を紹介された。

保存の活動は、その地域に暮らしている人々に支持され支えられなければならないと述べられていた。



会場外観



シンポジウム風景

インスタレーション 11月17～19日

大会のあった仙台市は戦争で空襲に遭い、戦後、定禅寺通、広瀬通、青葉通と造り今のような櫛の大木がある都市となった。こうして出来た、会場前の定禅寺通の中央分離帯では、東北支部の各地域会によるインスタレーションが展示されていた。建築家の団体らしくどの作品もきちんと作られていた。写真は宮城会の作品で、藁を積み上げ壁が土で塗られていた。作品は、大会最終日に解体撤去されていたが、宮城会の作品はこのまま休憩所として活用できるものであった。

今回も、メディアテークや、近隣の都市まで足を延ばし多くの建築を見学する事のできた大会であった。



地域会の作品